

第2回各務原市水質改善対策委員会 議事要旨（概略版）

日時	令和6年10月1日（火）14：00～16：50
場所	各務原市役所本庁舎 4-3・4-4 会議室
出席委員	松井佳彦委員長、平田健正副委員長、神谷浩二委員、田中周平委員、小坂浩司委員（WEB）
オブザーバー	清水俊貴氏（代理・WEB）、猪岡貴光氏（WEB）、工藤喜史氏、居波慶春氏
事務局	市長、水道部職員、市民生活部職員、極東技工コンサルタント（補助）

議事録（要旨）

議題1 水質改善対策基本方針について 市独自の運用目標値の設定

- ・ 長期的水質改善対策の新水源調査では、35種のPFAS分析調査の結果から、可能な範囲で幅広く把握することが望ましいため、標準試薬で測定が可能な21 PFAS（13 PFCAs、8 PFSAAs）を調査対象とした
- ・ 中期的水質改善対策での対象物質は、35種のPFAS及び未知前駆体化合物の分析調査の結果から、PFOS及びPFOAに加え、要検討項目のPFHxS、POPs条約の検討委員会で議論がされており検出状況が大きいPFNAとした

議題2 中期的水質改善対策について

- ・ 民間企業によるPFAS処理技術の性能試験の試験状況および過年度実施の基本設計の結果から、粒状活性炭、イオン交換樹脂などのろ材を用いた圧力タンク式の浄水処理が有力であるとした
- ・ 配置として、三井第二水源地の曝気槽の前にPFAS処理施設を新設することとした
- ・ イオン交換樹脂の場合、処理水に発生する塩化物イオンの影響度合の確認が必要であること、調達や再生処理の実現可能性を検討するよう指摘をいただいた

議題3 長期的水質改善対策について

- ・ 水源種別の4案（木曽川取水、伏流水、地下水、受水）の概略費用から、経済性等を評価し、地下水取水が有利と評価した
- ・ 地下水取水の候補地3か所について、地下浸透水量や硝酸態窒素の検出状況、災害リスクなどの比較検討を行い、候補地B（各務山南）を試験井掘削調査の第一優先とした

その他 休止井戸について

- ・ 運用井戸の濃度低減を目的として、休止井戸でのくみ上げを実施した場合の課題等について報告を行った
- ・ 現状排水基準が設けられていないが、人為的操作が加わる以上、何らかの処理を行い排水する必要があるとの指摘をいただいた
- ・ 引き続き、県と協議を行いながら検討することとした